



December 2014

高等教育推進機構

アカデミック・サポートセンターニュース

Academic Support Center News

Vol. 14

本紙第14号では、2014年10月から12月にかけての学習支援及び進路選択支援の様子をお伝えします。

「英語コミュニケーション」に活気

第二学期に入り、アカサポで実施している各セミナーが次々と始まった。好調の英語コミュニケーションの様子や、物理ゼミ・数学ゼミの近況、新規開催のアカデミックスキルセミナーについてお伝えしたい。

英語コミュニケーションに活気がある。留学生チューターを少人数で囲み、英会話スキルを磨くもので、週に2回実施し、毎回定員に近い6名前後の参加者が集まる。"English Vocabulary"



英語コミュニケーションの一幕(10/23)

のようにテーマを設定して行う回もあれば、簡単なゲームを通じて英語でのコミュニケーション能力を磨く回もある。例えば、各々が有名人の名前を紙

に書いて交換する。紙を受け取ると、自分はそれを見ずに周りの人に見せ、YES/NOで答えられる質問を繰り返し、自分が持っている紙に書かれている有名人を当て、という次第だ。和気あいあいとした雰囲気の中で、「宮崎駿」「安倍総理」「ジョン・レノン」などのビッグネームや参加者の名前が出され、盛り上がった。12月1日にはマサチューセッツ大学アマースト校の司書 Maxine Schmidt さんをゲストに迎え、15名程の参加者が話に聞き入った。

最近、物理ゼミや数学ゼミで扱う問題やスライド資料が学習サポート室(E211)前のパンフレットスタンドに置いてある。学

生は自由にこれを取れるようになっており、取得数は多いもので110枚に上った。大半の学生はこれらのゼミ資料を自習に使い、一部の学生が実際にセミナーにも参加するという利用になっているようだ。

附属図書館と連携した学部生・院生向けセミナーも開催された。名称を「スキルアップセミナー」から「アカデミックスキルセミナー」に変更し、より充実した内容となった。今学期は、アカサポが担当する卒論・修論執筆、発表に関するセミナーと、図書館が担当する文献収集、文献管理に関するセミナーを開催した。アカサポ担当のセミナーでは、「卒論・修論を書く前に(理系編)～ピースを集める～」というタイトルで2回開催し計12名、「卒論・修論の書き方(理系編)～文章を組み立てる～」のタイトルで2回開催し計20名の参加があった。どちらも学部4年生と修士2年生が参加者の約半数を占め、卒論・修論執筆へ向けて準備している学生の参加が目立った。アンケートの結果を見る限り、参加者の反応は上々と言えそうだ。

アカサポではこれらのセミナーのアンケートを分析し、今後も学生のニーズに沿ったセミナーを企画・開催していく考えである。



アカデミックスキルセミナーの様子(12/9)

スタッフの心象 第7回「本人の声を聴いてみたい」

このコーナーではアカサポに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

高校生対象の北大進学相談会に参加した。東京・名古屋・大阪の3会場で、アカサポブースには計82件の相談が寄せられた。およそ半数が学部・学科に関する進路選択の相談だ。

将来を左右する選択である。高校生本人だけでなく、親にとっても一大事のように、親同伴の相談者が数多くみられた。

ある相談を再現しよう。

スタッフ「こんにちは。どのような相談ですか？」

高校生「…(チラッと親の方を見る)。」

スタッフ「…(あれ?)。」

親「生き物に興味があるみたいなんです、学部選択で迷ってしまっ。

スタッフ「確かに生物を研究対象とする学部・学科は多いですね。ただ、どのような勉強や研究がしたいかで進路は変わってきます。どんなことに興味がありますか？」

高校生「…(チラッと親の方を見る)。」

スタッフ「…(あれ??)。高校だと、生物の勉強のどんなところが好きでしたか？」

高校生「(えーと、えーと…)。」

親「家では希少動物の保護に興味があるみたいなんです。」

スタッフ「あ、はい。動物保護でしたら…(以下略)。」

たまにだが、このようにスタッフと親の間で会話が進み、今の本人からは意思どころか声すら聞けないことがある。

親の前という気恥ずかしさと、子供のことを思うばかり先に喋ってしまう親心の表れなのかもしれない。北大に入学し、アカサポを訪れる機会があれば、ぜひとも自分の思いを聴かせて欲しい。

北大の先生方の、大学一年生の頃の思い出と現在の一年生へ向けたメッセージです。

「失敗は誰でもいやだけれど…」

副学長・新渡戸カレッジ副校長
理学研究院生物科学部門・教授

山口淳二



こんにちは、新渡戸カレッジ副校長の山口です。2年前まで総合教育部長として、アカサポの活動にも参加していました。ということで、新企画「あの頃みんな一年生」(執筆者に大学一年生の頃のエピソードや今の一年生に思うことを書いてもらう)の原稿依頼が私にきました。

(あの頃…、今から40年位前の大学一年生の頃)、私は、漠然と研究者になりたいと思っていました。ただ、その当時はインターネットもないわけで、そんな夢を実現するための情報はごく限られていたのでしょう。とりあえず、「受験勉強ではない、本当の学問が思いつきたい」、と考えていたと思います。高校の時、物理学も好きだった私は、当時在籍していた理学部生化学科での勉強は当然として、「物理のできる生物学者」を目指して、物理学科の専門の授業も試しに受けていました。1学期末の物理の試験の時、先生が数式を黒板に書き、「じゃ、コレ、授業時間が終わるまでに解いてね」といって、教室を出て行ってしまいました(当然、その頃は試験TAなんていませんよ)。物理学

科の連中は、さっさと計算を始める者、教科書や参考書をひっくり返す者、途方にくれる者、と別れました。(半分部外者の)私は、当然、第三番目。ブルーボックスを読んであこがれた壮大な宇宙のロマンを語る前に、「つべこべ言わずに、この微分方程式を解け!」という、本当の学問の壁が横たわっていました。というわけで、「物理のできる…」の夢はここで挫折。今、理学部生物科学科(生物学)の教員として、思いつき研究できる喜びをいつも感じています。

私の大学一年生の頃は、今とはずいぶん雰囲気が違うことがお判りいただけましたか?GPAを気にすることもなかった、ある意味おおらかな時代だったことは事実です。とはいえ、時間は遡れません。私たちは皆、「つべこべ言わずに」、今を生き抜いていかなければならないのです。さて、ここから、現在私が関係している新渡戸カレッジに関連したお話をします。カレッジにはフェロー制度というものがあります。フェローは、本学の卒業生で、国際的な経験をもち各界で活躍されている方々になっていただいています。こ

で、私の心に響いたフェローの言葉をみなさんに送ります。これは、私があるフェローに「(後継者として)組織のトップを託す」、そのための資質について伺った時の答えです。

《失敗と決断の数だけ、その人物の評価は高まる》

これは、「大きな失敗をした挫折経験をもたない人間に、そしてそれを乗り越えた経験を持たない人間に、本当に大切なことは任せられない」、ということを意味する言葉だと思います。失敗は誰でも嫌なものですが、ただそれを恐れていて前に進まないのはあまり良いことではありません。新しいことにチャレンジする勇気と日々の些細な出来事に対する旺盛な好奇心を持ち続けてほしいと願っています。こんな社会経験の豊かなフェローのお話を聞いてみたい方、ぜひ新渡戸カレッジに入学してください。私も大学一年生の頃にこういう話を聞いていれば、もう少し頑張って「物理のできる…」になれたかもね。

お知らせ

今後の進級・移行関連イベントのスケジュールを掲載します。

- 2月3日 第2学期授業終了
- 2月4日 学部・学科等移行ガイダンス
- 2月5日 学部・学科等紹介【ASC進路相談会も予定しています】
- 2月16～20日 自由設計科目登録変更期間
- 2月27日 全学教育科目成績確定

総合入試入学者の学部・学科等移行手続き

※上記スケジュールと並行して学部別入試入学者の学科等分属手続きが行われます。

アカデミック・サポートセンター

〒060-0817

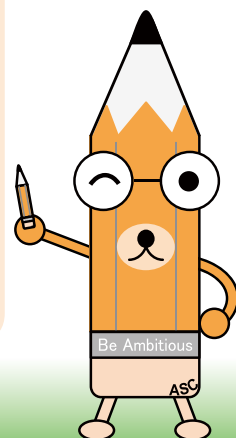
電話:011-706-7526

札幌市北区北17条西8丁目

E-mail:asc@high.hokudai.ac.jp

北海道大学高等教育推進機構2階

URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/



次号は3月発行予定です